

本の ひろば

[月刊] キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2017年3月1日発行(毎月一回発行) 第710号

ISSN 0286-7001

出会い・本・人

宗教改革500年の想起 小田部進一

本・批評と紹介

上智大学キリスト教文化研究所編
ルターにおける聖書と神学 宮本 新

宮本善樹 著
教会会計 山崎龍一

福地多恵子 著
主の奇跡と守り 臼田尚樹

大崎節郎 著
大崎節郎著作集7 説教集 久野 牧

窪寺俊之 編著
スピリチュアルな存在として 伊藤高章

加藤常昭 著
竹森満佐一の説教 本城仰太

岡崎 晃 著
語りつづけた言葉 小塩トシ子

高橋貞二郎 監修
10代のキミへ 鬼形恵子

本屋さんが選んだお勧めの本

近刊情報

書店案内



3 MARCH
2017

遠藤周作と志をともにし、日本人の心に届く福音を伝えた神父の著作選集

第2期 井上洋治著作選集

7

まことの自分を生きる イエスへの旅

第2回
配本

山根道公 編・解説 若松英輔 解説

自らの心の友、賢治、芭蕉、西行、良寛を師イエスに紹介する思いで綴る『まことの自分を生きる』と、自身の経験から日本の福音宣教のあり方を探求した『イエスへの旅』を収録。

2017年2月20日
刊行予定

◆A5判 上製・268頁・2,700円



十字架上の
七つの言葉と
出会う

W.H.ウイリモン
上田好春 訳



日本キリスト教団出版局

十字架上の七つの 言葉と出会う

2017年
2月24日
刊行予定

W.H.ウイリモン 上田好春 訳

イエスが十字架上で語った言葉の衝撃を、わたしたちは正しく受け止めているだろうか。アメリカの著名な説教者による、その言葉一つ一つをとりあげた7編の説教。

◆四六判 並製・220頁・2,376円

ミッションダイアリー 2017 年間・月間・週間予定表に、教会暦・聖書日課を備えた好評のB6判手帳 ◆B6判 2色刷り・1,620円

WEBアンケート 受付スタート!

今後の製作の参考のため、
WEBアンケートを実施しています。

ご意見
募集中

回答者の中から抽選で50名様に、〈Mission Diary 2018〉をプレゼントいたします。(受付 2017年3月31日まで)

ぜひご購入の上、ご回答ください!

ミッションダイアリー アンケート

検索



新し手帳



出会う・本・人

宗教改革500年の想起——小田部進一

礼拝堂と壁一枚で隔てられた牧師館の部屋で育った私は、高校生になると、キリスト教について様々な疑問を持ちはじめ、私の家族の精神的なルーツに関心を持つようになりました。関西学院大学神学部に入ってから探究は、明治期に牧師となつた曾祖父とその時代のプロテスタント宣教の歴史を越えて、十六世紀の宗教改革にまで遡っていきました。

ドイツの宗教改革者ルターに関心を持ち、宮谷宣史先生の歴史学ゼミで、原典を苦勞しながら読み始めました。あれから四半世紀が過ぎ、この度、私なりにルターとの対話の中で理解してきたことを『ルターから今を考える——宗教改革五〇〇年の記憶と想起』（日本キリスト教団出版局）にまとめてみました。今、ルターを読めば読むほど、彼が対峙し、また克服しようとした問題から、現代社会の問題の深部に迫ることができるように思えてきました。現代は、伝統的な宗教が痩せ細り、社会は世俗化したと言われています。しかし、ルターが批判した人間から自由を奪う偶像あるいは律法の力は、世俗化した社会の中でこそ、その威力を発揮しているのではないのでしょうか。

日常の社会的関係や経済の原理が絶対視され、社会の要求に常に応えるための自己形成や自己評価に疲れ、多くの人が自己の存在の意味や価値の喪失を経験しています。ルターの時代に、

最後の審判と永遠の死の不安という宗教的な枠組みの中で経験された究極的な存在の根拠をめぐる問題が、現代では、世俗化した社会の枠組みの中で経験されているように思われます。そのため、制度的な宗教を避けたとしても、そのことが問題の解決や不安をもたらす力の支配からの自由を保障することにはならないのです。むしろ、宗教改革者ルターから大事なことを学ぶことができます。

私の好きなルターの言葉に、『ハイデルベルク討論』（一五一年）の第二十八論題の解説で述べられた命題があります。「罪人」「人間」は、愛されるから美しいのであり、美しいから愛されるのではない。美しいから愛される「人間の愛」の世界に対して、ルターは、すでに愛されている関係を前提とし、その中で絶対的に与えられ、失われることのない尊さが受動的に発見される「神の愛」の世界を指し示しています。ルターは、この受動的な関係性から生じる自由と愛に目覚め、それを実践し、歴史に刻んだ人間でした。そこに、現代の人間の解放の糸口が示されているのではないか、私がルターの著作から学んだことです。

（こたべ・しんいち 玉川大学文学部教授）

エキクメニカルなコンテクストを表わす論集
上智大学キリスト教文化研究所編

ルターにおける聖書と神学



宮本新

コンテクストという言葉が神学で論じ始められて半世紀近く経っている。言葉や思想は真空状態の中で語られるものではなく、特定の場所を持っている。歴史的な人物やテキストにアプローチするならば、その置かれた状況や前後の脈絡は無視できないのと同様に、アプローチする側のコンテクスト(文脈や状況)もまた視野におかれる。そこに双方向に働くダイナミズムが生まれる。本書は「ルター」、「聖書」、「神学」といづれも巨大なコンテクストが交差するテーマを多彩な論者たちが各主題で切り結んでいる論集である。

まずはじめに、内藤新吾師は「二つの領域を生きる私たち——いわゆる二王国論を巡って、脱原発の経験から」において、ルターの「二王国論」を取り上げコンテクスチュアルな視座を提供している。内藤氏が牧会で出会った一人の人への応答が原点となっている。しかもそれは「脱原発」という世界で喫緊の問題にまで一人の牧者の活動領域を広げた「経験」であり、同時に自らの神学的な系譜と遺産とを批判的に継承し展開する苦闘の息吹を読者は感じることができるところであろう。この冒頭論文

につづいて、竹原創一氏、吉田新氏そして川中仁師の三者が「ルターと聖書」の諸問題を論じている。
ルターは体系的な組織神学者ではない。その著作集の多くは説教集のようでもあるし、実際そうであった。ルターもまた自らが生きた場所ので、「神のことは」を聴いて語ろうとした人であり、それを聞いて読む相手があった。そこで聖書をどのように扱うかは重大な課題であった。ルターは伝統的な聖書解釈方法を継承し、またクリエイティブな展開を見せている。竹原創一氏は「文字の意味と転義の意味」をめぐりルターの聖書解釈方法の特徴を論じている。

ルターの聖書への取り組みは徹底したものであり、当時の民衆訳聖書ともいうべき「ルター訳聖書」を生み出した。吉田新氏はこのルター訳聖書がこんにち及びす影響を踏まえ、現代ドイツにおける「校訂版」や「公平訳」といった新しい聖書翻訳の動向に着目している。「ルター訳を継承すること」は、ドイツにおける宗教改革の精神を継承する」のか、あるいは伝統を刷新するものなのか論考を深めている。恐らくどちらもあり

うる宗教改革のユニークな特質を浮かび上がらせている。

ルターと聖書をめぐる問題は他にもある。特に「聖書のみ」はプロテスタントにおいて広く一般化され、その内実は多様である。川中仁師は「聖書と伝統」というまさに伝統的な問題に光をあて、とりわけこの問題が宗教改革以後のカトリック内においてどのように捉えなおされているかを論じている。とかくプロテスタントにおいて、宗教改革以後の発展と展開ばかりが関心となり、「カトリック」理解がアナクロニズムに陥る危うさもある。しかしカトリックの五〇〇年もまたある意味で同じ問題群を捉え、相互の理解がかかせない。とりわけ第二バチカン公会議はここでも注目される見解を示している。聖書の伝統に対する優位性は「人間的な諸伝承」においては当然ながらも、川中師はさらにそれが新約聖書的にはどうなのかと問い、ありきたりな伝統や伝承の理解を斥ける。新約聖書における「伝承」概念には、「極めて多義的」で多相的な区別が可能であり、また必要である。しかもその多相的な伝承理解にキリスト

論的次元があることを指摘する。論題が「キリストの福音の伝承」とされている所以であろう。

論集の最後に、鈴木浩師はルターの宗教改革運動が聖書本文における神学的な「つまずき」に端を発するものであったと論じている。宗教改革の逆説的な真理解がここでも指摘されている。聖書に向き合い、「つまずきの石」につまずいてこそ、ルターの信仰と神学は「一点突破」の「全面展開」へと導かれたことになる。

本書は二〇一五年に上智大学キリスト教文化研究所がカトリック東京大司教区との共催で開催した聖書講座が基となっている。このような講座と出版自体がエキクメニカルなコンテクトを表現している。宗教改革五〇〇年をむかようとしている今、備えの時として本書が読まれる意義は大きいと思う。

(みやもと・あらた)日本福音ルーテル園調布教会牧師、日本ルーテル神学校教員

(四六判・一五六頁・本体二〇〇〇円+税・リットン)

新刊

LITHON

ルターにおける
聖書と神学
上智大学キリスト教文化研究所編

ルターにおける
聖書と神学
上智大学キリスト教文化研究所編

二つの領域を生きる私たち
内藤 新吾

ルターの聖書解釈方法の特質
竹原 創一

ルター訳聖書と現代ドイツ教会
吉田 新

キリストの福音の伝承
一「聖書のみ」と「聖書と伝統」の
対立を超えて
川中 仁

ルターにおける
「つまずきの石」と「神学的突破」
鈴木 浩

キリスト教文化研究所蔵
『ルター訳聖書』について
竹内 修一

ISBN978-4-86376-053-0

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

会計の学びを通して深められる実践的教会論
宮本善樹著

教会会計 基礎から実務まで



山崎龍一

やがて訪れる神の国の到来、完成のその時まで、教会はこの地に建てられ、現実社会の経済活動及び法令に対し、信仰告白に基づく教会の姿勢（時に闘い）が求められます。本書『教会会計』は、地に住み誠実に歩むキリスト教会とは何かという問いを、会計そして社会常識、宗教法人法、税法という枠組みに直面しつつ提示してくれます。

「会計は不得意」という方が教会に多いことや、お金のことはこの世のことという考えのため、役員会や教会総会等でお金に関わる重要な判断が求められる時、会計にちよつと詳しい人の大きな声によって決議が左右され、本来ならこの世の法令と教会法との間の対峙によって問われるはずの教会論が深まらないことがあります。

本書はその根底に教会会計に基準がないことを指摘しています。そのため監査基準も曖昧となり、会計監査とは教会総会等で「相違ありません」と一言を告げる人になっています。そして本書の特徴は、教会の会計基準の提案のみならず、「実務編」を丁寧に著し、その具体的な事案から再度、「教会とは

どのような存在か」を問い直す、まさに実践的教会論と言えるでしょう。

教会の会計は十分な神学的思考形成ができていない分野でもあり、会計における実践的教会論を深めるため、本書の中から次の三点を取り上げて挙げてみます。

第一に本書で繰り返し返されている「公」という概念の吟味です。「教会は国家権力の干渉を受けない」としつつ、教会は「公のもの」であるため教会会計基準は「公益法人会計基準が望ましい」という前提です。国の許認可法人の基準を受け入れる姿勢の是非、そして教会は公益法人かという基本的な問いです。「公」という言葉の持つ響きに対して、かつての宗教団体に屈した日本の教会史を紐解き、もつと丁寧な検証が必要でしょう。教会は本書で語られている「公」に対して戦うこともありえます。教会は、いきなり信教の自由の問題が問われるより、小さく現実的な課題、教会会計や法令理解から崩れていきます。例えば現在八、〇〇〇万円以上収入のある宗教法人は税務署に収支計算書を提出することになっていま

すが、本来非課税団体がなぜ税務署に提出義務があるのか等、ひとつひとつ真剣に考え、「教会は公的団体か」という理解への深い問いと議論が必要でしょう。

第二に宗教法人法と教会法との関係です。宗教法人法では宗教の聖なる部分には触れず、俗なる部分つまり財産管理にのみ及ぶ法令だと説明されています。しかしキリスト教世界観はそのような二元論は取っていません。宗教法人は教会の財産管理だけをする特殊な法人で、教会活動全般と区別されるべきものですが、教会側の認識もまだ十分に深められていません。宗教法人には「社会における活動が保証され」と表現していますが、「活動」は宗教法人法の干渉する範囲を超えていると理解する必要があるはずで、宗教法人法と教会活動に関わりについて、さらに検証する必要があるでしょう。

三番目は、会計や宗教法人法を考える上で最も大切な基盤でありながら、多くの教会で何気なく用いられる思考……そ

れは、牧師には「お金の概念の把握が経験的に希薄」と記されている部分です。本書が記すように神学校で教会会計講座を持つことには賛成ですが、根底に「会社勤めなどの社会経験のないままに」牧師になる人が多いことを理由とするならば、教会会計の神学的議論を深めるものになりません。社会経験から教会論は立ち上がらないからです。お金に対する視点もまた聖書から位置付けられることが大切であり、なげない言葉の使い方から、教会会計の教会論的概念を失わないようにすること大切です。

以上の三点に聖書からの光が当てられ、日本社会における教会のあり方が建設的に問われ、深まり、地に立つ教会が建て上げられていくため、本書が用いられることを願っています。

説教黙想アレニア 特別増刊号

牧師も教会員も！ 復活を信じ、伝える、すべての人の必読書

見よ、この方を！ 今、復活と十字架を いかに語るか

2017年
2月13日
刊行予定



- 第1部 今、いかに語るか
- 第2部 説教黙想
- 第3部 生活の中で
- 第4部 今日の「表現」から
- 第5部 黙想から説教へ

キリスト教信仰の根幹、「主イエスの復活と十字架」。神学的な分析や旧約聖書の関連箇所、説教黙想、音楽・美術・小説などを通してこの福音に迫る。復活の説教を書くための、懇切な手ほどきも収録。 B5判・128頁・2000円

学会注目の若手旧約学者による
日本語初の単著

旧約文書の 成立背景を問う

共存を求めるユダヤ共同体

魯恩碩(ろ・うんそく)

捕囚期以後、ペルシア時代のユダヤ共同体の試練と苦闘の結晶・旧約聖書。その編纂の担い手となった人々や諸文書成立の時代的・社会的背景を問う。 A5判 上製・402頁・4,320円

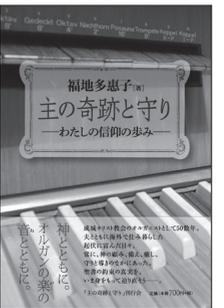
日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyoutu@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

オルガン奏者の真実な証しの力と、慰めと励ましにあふれる恵み

福地多恵子著

主の奇跡と守り わたしの信仰の歩み



白田尚樹

成城キリスト教会の創立者であり父である、平出慶一師の信仰の姿を見ながら育った福地多恵子姉の信仰の歩みが、著者九十一歳の誕生日に発行されました。奇跡と守りに富んだ、主のあふれる恵みを紹介いたします。

〔平出慶一師は、大正七年（一九一八年）内村鑑三、中田重治、木村清松らと共に再臨運動を全国的に展開した。〕

今、教会の礼拝堂には美しいオルガンの音色が響きわたっています。教会のオルガニスト福地多恵子姉は、明日の聖日礼拝の奏楽に備えて、土曜日に教会のオルガンで二時間ほど練習されます。私はそのオルガンの音色を耳にしなが、礼拝の説教準備をしています。

福地多恵子姉は、教会創立の最初の礼拝以来、奏楽を続けて来られた成城キリスト教会のオルガン奏者です。教会創立時の最初の礼拝の時、二十一才からオルガンの奏楽を始められて、来年は教会創立七十周年目であるゆえ、五十数年にわ

たり、礼拝の奏楽を通して主にお仕えしてこられたのです。礼拝での奏楽は単なる伴奏ではなく、賛美そのもの、祈りそのもの、礼拝になくはならない奉仕です。

福地多恵子姉は教会音楽を専門的に学ぶためアメリカのゴールデンゲート・バプテスト神学校で学ばれ、海外でも米国カリフォルニア州バークレーにあるクリスチャン・レイマン・チャーチとマレーシア国のクアラルンプールにあるカルバリー・チャーチでも礼拝の奏楽のご奉仕をされました。礼拝の前奏を弾きだす時、会衆の心は静まり、主の御前における祈りへと導かれます。奏楽によって礼拝が生き生きとした時間になり、神の命の息が礼拝をささげる一人ひとりに吹き込まれるのです。もちろん御言葉を取り次ぐ私自身にもです。

福地多恵子姉はご自宅のオルガンでも毎日練習されています。

守り、奇跡をもって主の御愛を表してくださいさるのです。

「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない。」（ヘブル人への手紙十三章八節）

す。もちろん技術的にいつでも曲を弾くことはできます。それでも土曜日の教会でのオルガン練習を欠かしたことはありません。祈りをもって奏楽するため、あるいは奏楽が祈りとなるため、これほどまで真摯にご奉仕される中に主の御再臨を待望する真の礼拝者としての姿を見るのです。

（うすだ・なおき）日本福音基督教団成城キリスト教会牧師
（四六判・八八頁・本体七〇〇円＋税・ヨベル）

この度は、福地多恵子姉が今まで体験して来られた「生きた証し」を是非綴っていただきたいと願い、「主の奇跡と守り」の発行となりました。真実な証しには力があり、慰めと励ましに富んでいます。読まれる方の心を必ず勇気づけることは間違いありません。敬愛する成城キリスト教会の奏楽者、福地多恵子姉の体験された証しに耳を傾けてみてください。きつとあなたも主のご臨在と主の導きを受けることでしょう。そして、主は今も生きて働いて、私たちに救いの御業を行ってくださいさることに気づかれるでしょう。主はあなたを

輝け、あなたの誕生日！
私の聖書歳時記366日
田中光三著

（十七年への聖書歳時記）
（主の御愛と御言葉の恵み）
（主の御愛と御言葉の恵み）

日々の霊想のための聖書歳時記366日！
聖書通読する中で示された箇所をやさしく解説しながら、教会の友や友人、知人の誕生日を祈りつつ覚え、その日々を平安に暮らしていく。これまでにありそうでなかったクリスチャンすべての方々に備えていただきたい座右の書。

絶賛発売中

A5判上製・454頁・2800円
ISBN978-4-907486-36-5

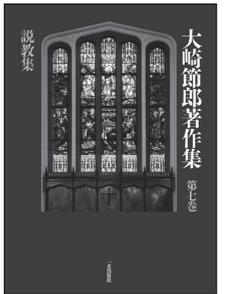
木下和好著 好評発売中！
聖書の教える
金持ち父さん
貧乏父さん50

自分の全てを神に献げ、神にゆだねて歩む人生への祝福 信仰
を持って人々が読むのに大変有意義な「目から鱗がおちる」本であり、ビジネスパーソンのご友人にプレゼントとして最適！ ヨベル新書 038・1,000円

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp (税別)
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

み言葉から語り出す説教
大崎節郎著

大崎節郎著作集 第七巻
説教集



久野牧

本説教集は、『大崎節郎著作集』全七巻の最終巻である。収められている説教は、三部から成っている。第一部は、先に『光あれ』（一麦出版社）として刊行されたものの再録である。第二部は、著者が諸教会において語られた主日礼拝説教の収録である。そして第三部は尚綱学院の学校礼拝において語られた説教が収められている。巻末には「あとがき」はないが、『光あれ』の説教集における「あとがき」が、第一部の結びの部分に記されているので、それによって、著者の説教に向かう姿勢をうかがい知ることができる。

それによると大崎先生は、「完成原稿」を用意して、礼拝に臨まれるということである。そのために、思いつきやそのときにひらめいたものが語られることは、全くない。聖書に即して事柄が丁寧に説き明かされていくのである。それは、説教の書き始めからそうである。ほとんどの説教が聖書の言葉から始められている。ときに聖書の言葉ではないことから始められることもあるが、その場合はその日が教会暦的にかくなる日であるか、あるいは集められた礼拝者にとってどの

ような日であるかについての言及が短くなされる程度である。そのようにして、自分たちが今、いかなる状況の中にあるかが確認されて、聖書本文に聴衆は導かれていく。

聖書そのものを説くことは教会における主日礼拝説教だけでなく、学校の礼拝においても貫かれている。とにかく聖書の言葉から始まり、聖書の言葉に沈潜し、そして聖書の言葉によって人々をそれ以後の日常へと遣わす説教、それが大崎先生の説教である。わたし自身、クリスチヤンスクール（中学・高校）で礼拝の奉仕をする機会が、一年に数回あるけれども、聖書の言葉にふれながら、その周辺のことと話をまともめることが多い。「それでよいのか」と自分のあり方を厳しく問われているような思いにさせられている。

今、説教の導入にふれたのは、これはとても難しいということがしばしば言われるからである。確かにそういう面がないとは言えない。しかし、大崎先生の説教を読むとき、わたしたちの耳にはいきなり聖書の言葉が入ってくるのだ。そしてそれが良いのだと教えられる。そうはせずに、聴衆の関心

を引こうとして、身近な出来事や、ジャーナリズムをにぎわしている最近の事件や、自分が観た映画やテレビから始めたすることもよくなされる。それは失敗に終わることが多い。なぜなら、聴衆の心はそれらによって聖書にひきつけられるのではなくて、逆に聖書から離れてしまうことがしばしばだからである。少し長くなるけれども、トゥルナイゼンの「説教の始め方、進め方、終わり方について——ひとつの説教学的研究」（K・バルト、E・トゥルナイゼン）『神の言葉の神学の説教』所収」という論文から引用させていただく。

「いずれにせよ、説教の場合には、できるだけ効果的な導入部を置くというようなことは、問題ではない。そうではなくて、直ちに聖書解釈から始めるのが正しい。しかしこのことこそ簡単なことではない」。さらに説教者が用いる導入によって、「そこで直ちに陥る危険は、最初のいくつかの言葉でテキストから離れてしまい、それどころか裏切ることさえなり

かねない」と言われる。そしていつの間にか聖書テキストは、説教者の内的主張を証拠づける単なる実例といったものになってしまうとの指摘に、説教者は耳を傾けなければならぬ。今日こうした傾向の強い説教をよく耳にする。

そのような説教をめぐる今日状況において、大崎先生の説教を読むときに、聖書の説教とはこういうものだということに改めて気づかされる。そしてそこに立ち返らなければならぬという思いにさせられるのである。聖書を引用して自分を語るのではなく、聖書をとおして今語りかけてくださる主イエスのみ言葉を、生き生きと響かせる説教をめざしたいものである。それは、聖書そのものを説く以外にないのである。この説教集の一篇一篇の説教の中に、わたしたちはそのような主の御声を聞き取ることができるであろう。

（ひさの・のぞむ）日本キリスト教会函館館生教会教師
（菊判・五四六頁・本体七六〇円＋税・一麦出版社）



大崎節郎著作集

第七巻 説教集 (全7巻)

大崎節郎
Setsuro Osaki



バルト研究で知られる
教義学者による福音的説教。

いくつかの教会で折々に語られた
励ましに満ちた説教。
神の恩寵の選びの確かさを
憶えさせられる。

〈全巻完結〉

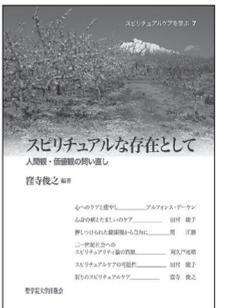
菊判・上製・函入・内容案内進呈
定価 [本体 7,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-088-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

シリーズ最終巻・いのちを輝かせるためのスピリチュアルケア

窪寺俊之 編著
スピリチュアルケアを学ぶ7
人間観・価値観の問い直し
スピリチュアルな存在として



伊藤高章

本書の特徴は、信仰とスピリチュアルケアという微妙な課題に正面から向き合っていることである。

ヨーロッパ社会に見られるように、宗教の多元化は現実であり、移民の問題はこの状況をますます複雑にしている。同時にスピリチュアルケアの必要は強く認識されてきている。このような中、一方で、宗教的伝統との関連を考慮することなくスピリチュアルペインを評価し介入する、「ジェネリック・スピリチュアルケア」の議論が展開してきている。他方、キリスト教・ユダヤ教・イスラーム・仏教・ヒューマニズム等の明確な価値に根ざしたケアが重視されつつある。軍や警察にこれらの伝統に立つチャプレンを配置し、スピリチュアルケアを社会実装する動きが進んでいる。

日本においては、戦後の教育の中で植え付けられた宗教一般への否定的感性に引きずられ、スピリチュアルケアの議論（臨床宗教師の展開も含め）は育ちつつあるものの、「ジェネリック」に流れがちである。思想的基盤の不安定感を禁じ得ない。本書のアプローチは、このような不安定な議論とは異なり、宗

教的伝統に根ざしたスピリチュアルケア論である。キリスト教福音主義の伝統に立ち、伝統を内側から「自己超越」（一六八頁）するまで徹底した神学を通して他者への傾聴に向かう、プロテスタント原理に基づくケア論がある。

シリーズの多くの巻と同様、本書は、聖学院大学総合研究所主催講演会記録である第一部と、原著論文からなる第二部という構成である。

アルフォンス・デーケン「心のケアと癒やし——スピリチュアリティとユーモア」には、日本における死の研究の草分けとも言えるデーケン氏の長年の研究実践がコンパクトにまとめられている。議論は、現代のスピリチュアルケアにも多くの示唆を与えてくれる。

関正勝「押しつけられた健康観から自由——健康が義務となる検査社会の中で」は、現代社会の健康観に潜む危険を厳しく指摘する。医療倫理の基礎概念が、聖書の言葉に導かれ、豊かに展開されている。

阿久戸光晴「二一世紀社会へのスピリチュアリティ論の貢献

——平和とスピリチュアリティ」は、原理主義を、安易な伝統墨守であり「確かさへの逃避」と批判し、それとは異なる、現実への創造的適応の努力としての伝統継承の重要性を論じる。自己超越に基づく学び合いによる平和を目指す議論と、ケアにおける謙虚な傾聴の重要性を説く議論との重なり合いが、多くを教えてくれる。自己超越は、「他者から学んで、私がいまま私らしくなっていく」という自己統合へと展開する。

田村綾子「心身の病とたましいのケア——大切だけれど忘れがちなこと」(第一部)、同「スピリチュアルケアの可能性——精神科領域におけるニーズおよび担い手としてのソーシャルワーカー」(第二部)二つの論考を通して、スピリチュアルケア援助論が十全に展開されている。メンタルヘルスの立場から、「スピリチュアリティ」を、さりげなく「歴史性」と捉え直していることから、新たな視点を得ることができる。

窪寺俊之「祈りのスピリチュアルケア——宗教や信仰を持たない人への『執り成しの祈り』」は、祈りの作法という禁欲的

な切り口からの議論を展開するが、実はスピリチュアルケアの典礼論である。宗教や信仰を持たない人との関係にあっても、「患者とケア者が神の前に一つに結ばれて、苦難や喜びを共に生きるものに変えられる」という、キリスト教の伝統に立つスピリチュアルケア神学が示されている。

宗教間協働は、各宗教宗派内のリベラルな立場の人々による周辺の活動にとどまるならば、長続きすることもなく、多くの信徒の協力を得ることはないだろう。ましてや、公共の場における宗教的な議論の本質的な重要性を伝えることもできない。それぞれの宗教や伝統において、その神学や教学に忠実に則った深い議論がなされ、その中から、伝統を異にする人々への共感やケアを信仰実践の核とするような、現代における信仰の革新が求められている。

日本の諸宗教の中に、本書と同様なヴィジョンの議論が展開することを切望する。

(いとう・たかあき) 聖智大学大学院実践宗教学研究所教授
(A5判・二六九頁・本体三三〇円+税・聖学院大学出版会)



主の祈り

説教と黙想

及川 信
Shin Oikawa



福音に生きるとは
どういうことなのか？
主イエスの
教えの中核である
「主の祈り」とおして、
全知全能の神を
「我らの父」と呼べる
幸いを語る。

四六判

定価【本体 1,800 + 税】円
ISBN978-4-86325-074-1



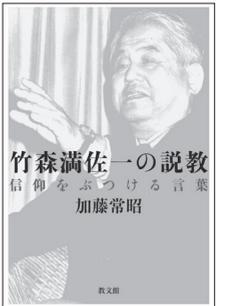
株式会社 一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888

http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

日本の講解説教の源流がここに！
加藤常昭著

竹森満佐一の説教 信仰をぶつける言葉



本城仰太

「暗い夜道を歩いていると、突然、すぐ前の家の戸が開きました。すると、真暗であったところに、急に、家の中の明るい光がかがやいてくるのです。その光の中で、はじけるような、家の中の楽しい笑い声が聞えてきます。だれかを送り出そうというのでありましょう。やがて、ひとりの人が出て来ます。家の中からは、この人を見送るにぎやかな挨拶が聞えてくるのです。すると、戸が閉じられます。道は、また、もとのままの暗さに帰ってしまいます。出て来た人も、闇の中に吞まれてしまつて、あたりは、前と同じようになつてしまつてあります」。

これは、本書に収められている竹森満佐一の説教の最初のもの、クリスマス説教の語り出しです。驚かれた方も多いのではないかと思います。竹森説教と言えば、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。(連続)講解説教、聖書に忠実、神学的、教理的……。聖書を一節ずつ丁寧に説いていけば、竹森流の説教になるという考えも根強くあるかもしれません。しかしそれは大きな誤解です。もちろん、竹森説教に上述の

特徴はあるでしょう。しかし本書で取り上げられている竹森説教に触れれば、竹森説教がいかに主題的であり、イメージ豊かであり、言葉の流れがあることが分かってきます。冒頭の語り出しも、実にイメージ豊かであり、竹森説教の特質の一つです。

本書には、七つの説教が収められています。説教のところで区切られ、小さな文字で著者の解説がありますが、まずはその小さな文字を飛ばして、説教全体を味わうのがよいと思います。続いて、解説の文章を読んでいくことになり。ここでは、おおむね著者が主宰している説教塾の手法が取られています。しかしその手法を知らなかったとしても、遜色なく読むことができるように配慮がなされています。

もちろん説教の分析には、様々な手法があります。一つの方法を「絶対化する」とは無意味(二七〇頁)です。しかし大事なことは、きちんと分析をして、その説教をよく把握することです。説教を聴くと、様々な心の動きが出てきます。なぜ心に響いてきたのか、反対になぜよく分からなかったの

か……。必ず理由があるはず。分析をして、その理由を把握することができれば、自分の説教の中に生かすことができます。竹森説教の全体を読んでみて、竹森説教のよさを感じたならば、そのよさを分析して、自分の説教に取り入れることが肝要です。

例えば、クリスマス説教の語り出しのイメージは、どのように説教で展開されているのでしょうか。今の私たちの時代の多くの説教も、例話などでイメージが語られることも多いでしょうが、そのイメージが一回語られただけで、生かして切れていない場合が多いように思います。ところがこの竹森説教はそうではありません。説教全体で生かされています。どのように生かされているのか。著者の分析によって、その理由を把握することができます。

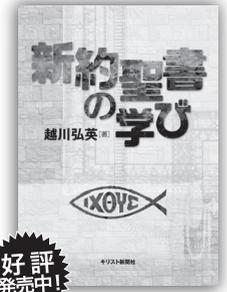
日本を代表する説教者である竹森満佐一にも、説教スタイルの変遷があったことが記されています。本書では、「黄金時

代」(著者のお連れ合い、加藤さゆり先生の言葉)の説教が多く収められています。今まで活字になっていなかった説教も含まれています。これらの竹森説教から学ぶ意味を、著者がこう記しています。「現在の多くの説教が、魅力あり力あるものになっていません。……何としてでも、説教が力を得なければなりません。伝道力のある、説得力ある説教とならなければなりません。真実の福音から生まれる言葉の力を得なければなりません。竹森満佐一の言葉は、独自のものであり、そっくりそのまま語ることができないし、その力を、そのまま継承することもできないかもしれません。しかし、多くのことを学び得ると思います。そして、それが、われわれ自身の説教再生にとって重要な意味を持つていと信じています」(二〇一―二頁)。

(ほんじょう・こうた)日本基督教団松本東教会牧師
(四六判・二九八頁・本体一九〇〇円+税・教文館)

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

これでわかる!
新約聖書の基礎知識



好評
発売中!

新約聖書の 学び 越川弘英著

キリスト教理解への一助となる、聖書への道案内。本書は新約聖書を初めて手にする方々を対象とする入門書である。 ■A5判・308頁・2,000円

佐藤優氏推薦!



好評
発売中!

アメリカ映画と キリスト教

120年の関係史 木谷佳楠著
あの名作映画に隠されていた、キリスト教の影響とは!?
■A5判・212頁・1,600円

キリスト新聞社 since 1946
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
FAX. 03-5579-2433 (価格は税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

若き日に聴く聖書
岡崎晃著

語りつづけた言葉



小塩トシ子

現今キリスト教を建学の精神として掲げる大学で、ある変化が起こっていると聞く。伝統的にほぼ毎日続いてきた「学内礼拝」の時間がなくなったり、あっても出席者が極めて少ないというのだ。これには驚き憂う気持ちを抱く。

人は生涯人格形成の途上にあるといえるが、特に若き日に、多様な人間観、世界観とその目まぐるしい変化に心を揺さぶられるなかで、キリスト教大学が学生たちに「変わらず立つ」根拠を絶えず指し示す場は学内礼拝にあると私は確信している。

だからこのような時に本書が出版されたことは意義深く感謝の思いをもって手に取った。

著者は大学でキリスト教を教える傍ら二十六年もの間この変わらぬものをそこで「ひたすら語りつづけた」牧師である。講壇に立った回数には数えきれないが、そのなかから二十数編に絞ったのがこの一冊となった。聴くのは学生だけではなく、教職員、生涯学習コースに籍を置く一般人も含まれている。横浜の中規模の女子大学でなされた小説教集とはいえ、広く全国の読者の手元にも届くことを願う。

聖書に親しむという連続説教へと移ってゆく。

人生いかに生きるか。神から委託されたタレントを「使命」に活かす、「しあわせ」「苦しみ」の意味、「感謝」「祈り」のある生活などキリスト者の生きる根拠、原動力を示す例話の数々。印象に残る二、三を挙げてみよう。

説教題「家族をする」というのは不思議な表現だが、寅さん映画の山田洋次監督の言葉だ。昨今「絆」が多く話題になるなか血の繋がりがかりに重点が置かれるけれど、家族とはじつは絆を作っていくものという意味づけに深く頷く。

「友だちっていいもんだ」では、よく知られている木村裕一作の『あらしのよるに』シリーズから、オオカミのガブと山羊のメイの話がそのままの科白ののって絶妙に語られるので、まるで一人芝居を見ているように楽しめる。

「信仰の友を思う」。これは新選賛美歌の公募で採用された歌詞に曲を付けた三八五番「花彩る春を」に事寄せて、親友

全体の構成は、第一部が信仰への招き、第二部が人生への問いかけ、第三部がクリスマス・イースター・平和とあっており、著者独特の緩急自在な語り口で、人間とは何かという問いかけから始めて、それに対する聖書からの応答によって信仰への道、新しい生き方へといざなう。いわばチャレンジとリスポンスの形で語り進めるキリスト教入門書である。

どの説教も短いが礼拝の中でなされたものだから、無論聖書のみ言葉に基づいて語られる。でもいわゆるテキストの講解や神学用語はいっさい用いられず、聴くひとと（読者も）共有する日常的な言葉なので分かりやすく腑に落ちる。

著者はまず学生に宗教や信心について問いを向ける。すると信仰者でない一般の学生は「まあ悪いものではないが、のめり込むと怖いからほどほどに」とか、「どの信心でも教祖の教えが大事でそれを信奉する」と答えることが多い。そこで他宗教の例も引き合いに出しながら著者は、聖書がイエスというお方そのものを信じることを、聖書はこの方が分かるための書物であるという明確な方向づけをして、そこから自然に

牧師の生涯と召天について語る感動的な説教。この賛美歌は告別式でよく歌われるが、形も内容も整っていて湿ったところのない日本的なおおらかな曲想を持つ。しみじみとした歌詞のリフレインもいい。三節「色づきゆく秋をこの友は生きた、いのち他人のために燃やしつ」と歌ううち著者は、「鼻につんときて」われ知らず涙を流したと言う。自身の早逝した生母が愛誦した賛美歌は、いつも涙を誘うので歌わなかったかつての経験を思い起こして。誰にも共感と感慨をさそう話ではないだろうか。

キリスト教三大祝日の意味を示しながら、信仰者の生き方と、国の現状を憂慮する思いを綴った第三部は、語りつづけた言葉の将来へ続く変わることのない使信として私の耳を捉え、今も心に反響している。

（おしお・としこ）英文学者、フェリス女学院名誉教授
（四六判・一五八頁・本体二二〇円＋税・教文館）

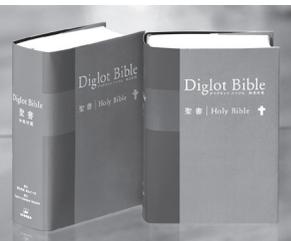
新しい
和英対照聖書が
できました。

日本語訳と英語訳の
理想的組み合わせ

総ルビ 和英対照聖書

ダイグロット
バイブル

Diglot Bible



English Standard Version
聖書 新共同訳 総ルビ

1 欽定訳の伝統を引き継ぐ、
原典に忠実かつ格調が高い
全世界で急速に愛読者が増えている、
必読の英語訳「ESV」

2 カトリックとプロテスタント諸教会、
全国のミッションスクールで、
圧倒的シェアを誇る「聖書 新共同訳」

●B6判 ●旧新約・3,120頁
●本文：約8ポイント ●総ルビ
●巻末カラー地図（日本語英語各7葉）つき

定価（本体6,300円＋税）

NIESV54DI ピンク
ISBN978-4-8202-1334-5

NIESV54DI ブルー
ISBN978-4-8202-1335-2

お求めはお近くの書店または

日本聖書協会
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 聖書館ビル
TEL03-3567-1987 http://www.bible.or.jp/

16人の執筆者からのあたたかな手紙集
高橋貞二郎監修

10代のキミへ いのち・愛・性のこと



鬼形恵子

本書の帯には「いのちの輝きのなかを歩む10代のみなさんに贈る、わたしたちからの手紙です」と書かれています。その通り、本書は16人の執筆者からのあたたかく、大切な事柄が語られた手紙集のような本です。

若い世代に向けた「愛」や「性」に関するキリスト教的な視点をもった本には、教訓的で戒律的な内容が多いと感じていました。今の10代が接している情報とはかけ離れていて、何となく「上から目線」であり、悩む人を裁くような印象さえもつこともありました。もちろんネットなどの情報が正確とは思いますが、大人の願う枠組みに若者を制約しようとするのも違うと思えます。

しかしこの本はそうではなく、むしろ極力そうならないように若者の現実寄りという葛藤や悩みを共感して、手助けと励ましを送りたいという執筆者の願いを感じました。また、巻末に載っている、執筆者たちの中高時代を振り返った思いも興味深いものでした。思春期は誰でも悩みの多いものであり、大人も多かれ少なかれその思いをもち続けています。

執筆者も、同じ時代を生きる一人の人間という立場で言葉を贈っている印象をもちました。

私は、キリスト教主義の女子中高で聖書の授業を担当しています。高三では「キリスト教倫理」について学び、キリスト教的な視点をもとに平和や人権、命に関わる問題などを取り上げます。その中に「性について」という單元もあり、ジェンダーや様々な性指向や性自認があること、また「性」そのものについてなど、性をめぐる問題について考えています。

以前、新聞に「10代の性」というタイトルで、高一で中絶をした女の子の手記が掲載されたことがありました。その記事について高三の授業で感想を書く課題を出しました。聖書の授業でそんな課題？と生徒たちはどう受け止めるかと私は思っていました。提出された感想はどれも真剣に、よく考えて書かれたものでした。自分の意見をしっかりと述べ、身近でおこった事柄や家族に対する思いを書いている生徒もいました。「今の若者は……」などとよく言われますが、私も含め大人が思っているほど中高生たちは「性」に対して軽く考

えてはいないと改めて知りました。

「性」は命や愛情とも関係する大切な事柄です。思春期になり客観的に家族を見るようになった中高生にとっては、家族を問い直す機会にもなったようで、様々な観点から出された意見は新鮮でした。生徒たちの意見のいくつかを誰とわからないようにプリントにまとめて配布したら、生徒たちは食い入るように読んでいました。マスコミやネットの情報は多くても本当に正確な情報なのか生徒たちも疑問があり、でも友人や家族とも話にくい内容なので、もっと意見を交換したいと思っているようでした。

そういう意味でも、若者の現実寄りという葛藤や好奇心、不安に配慮しようとする本の存在は貴重です。その根底に、本書のように「あなたを大切に思っている」というメッセージがあれば、誰もが安心して読み進めていくことができそうです。またあたたかなメッセージだけでなく、必要に応じて具体的な知識や相談場所なども明記されているのも

すばらしいです。

本書の内容は、第一の手紙「いのちのこと、生きるということ」、第二の手紙「愛のこと、恋愛のこと」、第三の手紙「性のこと、からだのこと」と、大きく三つの単元にまとめられています。「命・愛」に関するキリスト教関係の本は多いですが、「命・愛・性」と共に語る本は少ないように思うのです。私は「性」はそれだけを切り離して考えていく課題ではなく、その人がどう生きていくのか、どう人と関わっていくのかという、その人の「生き方」そのものの課題だと思っています。「命・愛・性」を関連づけて考える視点は大切です。

10代の人たちにぜひ読んでほしいと思います。保護者、学校の教師、教会や教会学校のリーダーの方々、また現代の問題について理解を深めたいすべての人にお薦めいたします。

(おながた・けいこ 横浜英和学院宗教主任、日本基督教団鎌倉恩寵教会 協力牧師)

(A5判・一六〇頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)



遠藤周作と志をともにし、日本人の心に届く福音を伝えた井上神父の著作選集、第2期刊行開始!

第2期巻
第5全

井上洋治著作選集

人はなぜ生きるか
イエスのまなざし

日本人とキリスト教

信じることの喜びと安らぎをわかりやすく語る、井上神父初の講演録『人はなぜ生きるか』全編と、思索のルーツを示す『イエスのまなざし』よりエッセイ5本を収録。A5判上製・250頁・2700円

従来の通説を鋭く問う
気鋭の新興学者による刺激的論考

福音書記者 マタイの正体

その執筆意図と自己理解

澤村雅史 広島女学院大学チャプレン
マタイはなぜ福音書を書いたのか。「すべての民」(28章)への宣教を促進するためといった従来の通説を問い直し、新しい視点からその執筆意図に迫る。
A5判上製・194頁・2,160円

日本キリスト教団出版局

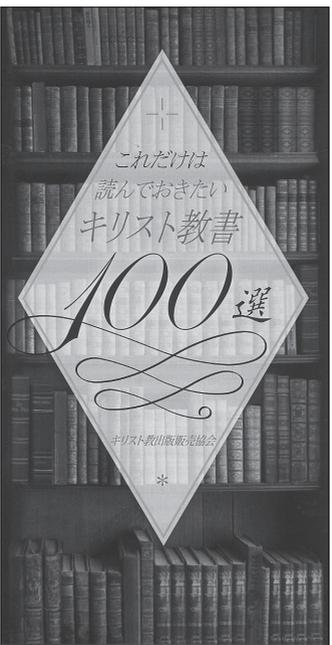
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》

http://bp-uccj.jp

急いで行こうと思つたら、古い道を行く

『これだけは読んでおきたいキリスト教書100選』

キリスト教出版販売協会



日本でキリスト教を信じる者は全人口の1%、という事実はよく知られています。同時に、残り99%の人たちが示すキリスト教への関心度が、人口の1%が奉ずる超マイノリティ宗教に対するそれとは思えないほど大きいことも事実です。教育・文化方面でキリスト教は絶えず存在感を示し、出版業界でも、一般向け雑誌がキリスト教特集を組むと部数がグ

るネット時代、かつて定評を得ながら膨大な書誌情報の中に埋もれていく名著も少なくありません。

キリスト教の知識を求める読者が多い一方、確かな内容の本の存在がそうした読者の方々に伝わっていない。こうしたもったいない現状を鑑み、キリスト教出版社が合同で企画したのが、『これだけは読んでおきたいキリスト教書100選』です。

このリストを見て興味に沿った本を読めば、キリスト教のとは口で変な情報や誤解に染まることなく、確かな知識を得ることが出来る。そしてさらに学びを深めていくための定番の基本図書や古典的名著も提示し、学びの方向性を示す。そんなガイドとして、まずは百点を厳選して紹介しよう……と企画が立ち上がったのは、二〇二二年のことでした。

「版元のひとりよがりではなく、読者にも内容を支持されている、誰にでも勧められるロングセラーを中心にリストアップする」という基本コンセプトのもと、事典類・聖書学・キリスト教史・神学書・実践神学・信仰生活・文学音楽美術各ジャンルの本をチョイス。最初に挙げた二百タイトルをさらに百冊まで絞り、それぞれ①キリスト教に興味を持ち始めた「初級者向け」②学校で聖書科の授業を受けるなどある程度基礎知識があつてさらに多角的にキリスト教を学びたい「中級者向け」③教会に通っていたり一通り聖書を通読するなごとした上でより専門的な知識を求める「上級者向け」に分類しました。

ンと伸び、一般版元が「キリスト教入門」を謳った教養書を出すたび一般書店の平積み棚を賑わせます。ですが、一般書店の「宗教」の棚をご覧になって、「なんであの本がないの？」逆に「なんでこんな妙な内容の本が？」という思いをされた経験はどなたもおありでしょう。実のところ、一般書店の書店員さんには、データ上「売れている本」は分かっても、どの本が「いい本」、つまり本当にキリスト教の確かな知識が得られる内容の本なのか、いわば商品知識を学べる機会がなく、正直書店員さんたちも悩んでいらつしやるのです。

キリスト教関連書籍が専門・一般問わず様々な出版社から幾千タイトルと刊行され、しかもこの「本のひろば」でも紹介されているように毎月何十冊も新刊が生まれている今、その全情報を把握するのは、一般書店どころかキリスト教書店の皆さんですら難儀になってきました。あらゆる本のデータが内容の善し悪しにかかわらず「情報」として等価に扱われ

こうしたリストを一版元が作るにしても自社商品の紹介ばかりになるところですが、この『100選』は業界団体の代表者が集まり長年協議を重ね磨き上げた結果、専門版元・一般版元の枠にこだわらず客観的な名著の揃った、バランスの良いリストとなりました。また、原則として「著者一人あたり一点」に絞ることで、幅広い著者を紹介することもできました。

百冊の中には入っていませんが、現在入手可能な主な日本語訳聖書とそれぞれの特徴の一覧も掲載し、教会ではなく書店で初めて「聖書」というものを購入する一般読者（および勧める書店員さん）への便宜を図っています。

発表以来、全国の書店さんから好評をいただき、このリストに載った本を集めたフェアが開催されるようにもなりました。確かなキリスト教書から確かなキリスト教理解へ、そして確かな信仰へ導かれる方々が増えることを願ってやみません。

『100選』リストは、全国のキリスト教書店やフェア開催書店で冊子版を置いているほか、各キリスト教出版社の公式サイトでPDF版を頒布していますので、ぜひご覧ください。

なお、この百冊を「全部」読まなければ一人前のキリスト者になれない、というわけではありませんので、どうぞ怖がらず。

(キリスト教出版販売協会出版部書記)

※お問い合わせは本誌23頁記載のキリスト教専門書店か、キリスト教文書センター(電話03-3260-6520)まで。

本屋さんを選んだ お勧めの本

日本聖書協会直営 聖公書店 村上信晃

『コリヤード懺悔録』

日慈博司編著



25,000円+税
八木書店

17世紀初頭の禁教下の日本で活動したカトリック宣教師の中に、デイエゴ・コリヤードというドメニコ会士がいます。彼の手による日本人キリシタンたちの告解の記録・『懺悔録』、これはその研究書です。原書の本文を解説しそれに適切な翻訳を付すだけでなく、用語・背景など現代日本人にはわかりづらい事柄についての詳細な解説もなされており、当時のキリシタンの肉声に我々が直に触れることを可能にしています。

注目なのはその内容で、当時の宣教の現場で語られていたキリスト教神学・教義と、キリシタンとなった日本人がそれぞれどう対したかを理解するための貴重な資料です。何より告解というその本質上、キリシタンたちの「罪」とそれについての葛藤が赤裸々に語られており、普通では明るみになるこ

北九州キリスト教ブックセンター 芝間丈弥

『1分間の黙想 祈りの力』

E・M・バウンズ著



1,800円+税
日本聖書協会

「日々の祈りに何か物足りなさを感じている。」その様な葛藤をお持ちの方には是非とも手に取って頂きたいのがこの一冊です。正直なところ、私がある一人でした。自分自身の課題や周りの方々の課題などを祈ることがメインになり、その一方で神様の御心を深く知り、そしてみこころにかなう祈りが出来ていないように感じていました。しかし、この『1分間の黙想 祈りの力』を通して、正にイエス様が隣にいて語ってください、それに応答するかの様な祈りへと導いてくれます。

たとえば、6月18日

祈りはその力を自ら証明する

「この方の御心を行おうとする者は、わたしの教えが神から出たものか、私が勝手に話しているのか、分かるはずである。」(ヨハネ福音書7:17)

これまでに示された祈りの働きは、信仰の励ましとなりま

とのない当時の日本人の本音や裏の習俗を直接知ることができません。さらに、その告解自体も当時の日本語そのままの音をラテン語表記してあるため、言語学的な資料としても一級品です。

後半に別の日本の学者による関連分野の研究が採録されているのも勉強になります。それが『懺悔録』原文と併せてポルトガル語訳されているのは一般向けにはやや余計ながら、編著者の研究活動上の都合もあるためやむを得ないでしょう。七四頁という大部の上、高額なので、専門家やよほどの好事家でない限り個人所蔵するには些か無理がありますが、多くの研究分野にとつての重要資料足りうるものです。関連研究機関や図書館にはぜひ備えて欲しい一冊です。

聖公書店

〒350-1311 埼玉県狭山市新狭山1-5-1
TEL: 04-2900-2772
FAX: 04-2900-2722
E-mail: seikoshoten@bible.or.jp

祈りは誰も実行したことのない、単なる理論ではありません。祈りは神が与えてくださった力です。祈りは人類のための神の御計画の一部です。神が地上で業を成し遂げるための手段です。贖いと摂理によって神の恵みに満ちた御計画を実現させます。祈りはその力を自ら証明します。祈りは祈る人を通してその力を示すことができます。祈りは、それがもたらす実り以外にその力を証明するものを必要としません。

祈りの力、祈りがもたらしうるものを知りたいなら、祈ればよいのです。祈って証明すればよいのです。

愛する主である神よ。あなたに感謝します。

最後にこの様に祈りで締めくくられます。

味わい深くプレゼントにも最適な装丁になっておりますので、ご自身や友人知人などへの一冊としてみてはいかがでしょうか？

北九州キリスト教ブックセンター

〒802-0022
北九州市小倉北区上富野5-2-18
TEL: 093-967-0321 (FAX 同)
E-mail: kcbookcenter@bible.or.jp

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrifkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台青葉区1-36 教誹センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中野区3-2 千原カシヤセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書局	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231		biblehouse@bible.or.jp	
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www7.biglobe.ne.jp/~yohatana.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市宮所通一番町313	025-229-0656	共用		info@s-seibun.co.jp	00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市駿河区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunstra@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://mbox.kyoto-net.or.jp	kyordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曾根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびばらりの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	078-331-9933			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区中區入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一丁目1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsujama_1007/mexlim	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区西原字線777 沖縄キリスト教書店	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■新教出版社

イエスの譬え話2 ——いのちをかけて語りかけられたメッセージは? (仮題) 山口里子著

罪人と名指され、十字架の上で果てたその生において、イエスが伝えようとしたメッセージとは何だったのか。福音書記者の編集の行間を歩み、イエスの言葉の核心を取り出す「疑いの解釈学」の最新成果。「10人の乙女たち」など解釈困難とされてきた譬え話が、全く新たな姿を見せる。「イエスの譬え話1」待望の続刊。 A5判・235頁・本体予価2100円

■新教出版社

新教コイノニア33 (仮題)

「時の徴」同人編
「第二次世界大戦下における日本基督教団の責任についての告白」が1967年復活主日に教団議長鈴木正久名で発表されて以来、この告白は数多くの人々を勇気づけ、他教派の罪責告白をも促してきたが、同時に深刻な論争と分裂をもたらした。あれから50年を経て、その神学的・教会的意義を検証し、罪責告白を批判的に継承していく課題を考える。 A5判・160頁・本体予価1500円

■キリスト新聞社

キリスト教年鑑2017

キリスト教年鑑編集委員会編著
1948年の創刊以来通巻60巻の継続性と新しい時代に対応した編集に努めています。2016年、キリスト新聞社は創業70年を迎えました。これを記念して、「キリスト新聞」に掲載した記事を中心に、1945年から2015年までのキリスト教界のおもな出来事を記録としてまとめました。 B5判・1334頁・本体150000円

カール・バルトにおける神論研究

——神の愛の秘義をめぐる考察

稲山聖修著
情熱をもってバルト神学への取り組みを続ける気鋭の研究者。著者はこの著作をもってバルト神学研究の新たな旅を始めた。従来のバルト神学研究とは異なる考察。三位一体論の根。 A5判・200頁・本体20000円

INFORMATION

近刊情報

■日本キリスト教団出版局

井上洋治著 作選集7

まことの自分を生きるイエスへの旅

山根道公編・解題／若松英輔解説
大自然の根源的生命の息吹き(ブネウマ)に生かされた求道者——宮沢賢治、芭蕉、西行、良寛を語る『まことの自分を生きる』と、日本人の心性とキリスト教を問うエッセイ集『イエスへの旅』を収録。 A5判・268頁・本体2500円

■教文館

キリストは甦られた——二〇世紀レント・イースター
R・ランダウ編／野崎卓道訳

二〇世紀ドイツ語圏で語られたレントとイースターの説教から精選された二八篇を収録。バルト、トゥルンアイゼン、イーヴァントラによる喜びと慰めに満ちたメッセージを、フラ・アンジェリコやジョットらのカラー絵画が彩る。 四六判・352頁+口絵16頁・本体3200円

コンバクト聖書註解

コリント人への第一の手紙I

澤村雅史著
パウロの説く、キリストに従って生きる道とは何か。いかに聖書の告げる正義と公平を実践するかを問いつつ、手堅い翻訳と明快な解説によってその特徴を明らかにする。三分冊の第一巻目。 四六判・276頁・本体3500円

ロシア中世教会史

J・フェネル著／宮野 裕訳

ルシー(モスクワ公国)の時代から、1448年にコンスタンティノープル総主教座を離れてロシア正教会として自立するまでを記す最良の通史。 A5判・380頁・本体50000円

戦時下のキリスト教主義学校

榑松かほる・影山礼子ほか著

国家の教育統制に対してキリスト教主義学校はどのように対峙したのか? 各学校の多様な実態を比較検討し、一方的な抑圧や追従といった固定的な歴史観を再考する共同研究。 A5判・224頁・本体37000円

福音と世界

2017年2月号

特集 正統と異端——宗教改革500年③
寄稿者 木ノ脇悦郎、筒井賢治、永本哲也、
朝香知己、渡辺英俊

教団戦責告白50年を考える 徐正敏／長尾有起
震災から6年 現在の課題 片岡輝美／柳谷雄介
好評連載 聖書とわたし（久米小百合、アメリカの教会と神学の今（吉松純）、現代神学の冒険（片名定道）、レウイナスの時間論（内田樹）、第二モテ書（辻学）、詩篇（月本昭男）ほか

A5判・本体588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

話題の映画『沈黙—サイレンス—』が公開された。日本を代表するカトリック作家の作品が、世界的巨匠によって映像化されたことは快挙と言えよう。少年期は司祭を目指していたというスコセッシ監督が、教会から敵視された『最後の誘惑』の製作後にこの原作に邂逅、爾来長年映画化を執望した経緯を持つ。「神の沈黙の声」という逆説は刻下にこそ鋭く心を劈く。

小説『沈黙』の刊行は一九六六年、既に半世紀が経つ。発表当時はカトリックから猛反発に遭い、長崎教区などで禁書扱いされた。故デルコル神父は遠藤文学を「ゆがめられたキリスト教を紹介したにすぎない」と評した。確かに後に汎神論・宗教多元論へと昇華される独自の思想が当時逸脱と危険視されたのは無理からぬことだが、教義の枠内でしか信仰の描出が不可能とすれば、不自由なカトリック文学は魅力の乏しいものと映る。遠藤が生涯追究した「キリスト教と日本人」という卑近かつ重

要な主題は、キリシタン時代における受容、流行、弾圧、殉教と棄教という厳然たる歴史的事実から学ぶことと愚考する。

ただ、総人口の約3%が入信し、数千人の殉教者が出た「キリシタンの世紀」を正しく把握するのは難しい。蒙昧の民に迷信が蔓延した現象として捉えたり、織豊政権や諸大名、宣教師が政治的利益を意図した結果にすぎないという解釈で満足したりするのは、畢竟深層へは達し得ない。故チースリック神父はキリシタンへの誤解の原因として、無神論者による動機への無理解、原史料の精査不足、翻訳上の困難、時代背景の理解不足を挙げた。四つのイドラを想起させる的確な示唆であろう。

折も折、二月七日大阪にて殉教者ユスト高山右近の列福式が挙行される。二〇〇八年のペトロ岐部と一八七殉教者に続く慶事に摂理の奇しさを覚えるが、単なる記念行事に留めず一つの学びの機としたい。映画『沈黙』の字幕監修も務めた川村信三神父の既刊『キリシタン大名 高山右近とその時代』（教文館）が非常に有用である。

また、教文館三階のキリスト教書部でも二月末までキリシタンフェアが開催されている。私は多事多端にかこつけて映画の鑑賞も読書の機会も逃しそうであるが。（高橋）

本のひろば 2017年4月号 予告

本・批評と紹介…日本キリスト教団出版局刊『聖書人物おもしろ図鑑』澤村雅史著『福音書記者マタイの正体』永田竹司著『見えない希望のもとで』越川弘英著『新約聖書の学び』、スハ・ラッサム著『イラクのキリスト教』、藤掛 明著『人生の後半戦とメンタルヘルス』ほか

好評発売中

現代を読み解くために
必須の情報源!



世界的に定評があるThe Concise Oxford Dictionary of the Christian Churchの最新版を底本。キリスト教界の動向に合わせて、多様なテーマを網羅。

●A5判函入・1018頁・本体12,000円【早内容見本】

オックスフォードキリスト教辞典

E・A・リヴィングストン編 木寺廉太訳

2月の新刊 (価格表示は税抜)



改革教会の伝道と教会形成

●四六判・216頁・本体1,800円

伝道、説教、礼拝、信条、教会政治から、教会と国家の問題に至るまで、教会の今日的課題に取り組んだ8編の講演を収録。混迷の時代を生きる教会への確かな指針を告げる。

イエス・キリスト時代のユダヤ民族史V

E・シユラー著 木村和良訳



ヘレニズム世界に四散したディアスポラについて、共同体組織や宗教生活の実態を詳述。ヘブライ語・アラム語で記された当時のユダヤ教文学についても概観。
●A5判・432頁・本体9,500円

受難と復活の賛美歌ものがたり

●四六判・240頁・本体2,400円

人々の罪の為に十字架につけられて死に、復活されたキリスト。その救いの喜びに溢れて、賛美せずにはいられなかった作詞者・作曲者をめぐる逸話満載。好評のエッセイ集。

オリゲネスの祈禱論

『祈りについて』を中心に

梶原直美

●A5判・324頁・本体4,500円

父を殉教で喪い、自らも財産没収や迫害の危機の中を生きたオリゲネス。祈禱不要論者に対峙する中で、彼は「祈り」をどのように考えたのか? 「キリスト教会最初の祈禱論」と呼ばれる『祈りについて』から、キリスト教的靈性と実践の本質に迫る。

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549 (出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館

新教出版社

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP : http://www.shinkyoy-pb.com, email : sales2@shinkyoy-pb.com

知的障害者と教会

驚きを与える友人たち

フェイス・パウアーズ 著 / 片山寛、加藤英治 訳

教理の知的理解に偏しがちな教会のあり方に対して、知的障害者の友は何を示すのか。ダウン症の息子を持つ著者が私たちの信仰観にチャレンジする。

◆四六判・本体1800円

2月25日

旅する教会

再洗礼派と宗教改革

1月25日

永本哲也・早川朝子・猪刈由紀・山本大丙 [編]

再洗礼派(アナバプテスト)はラディカルな立場のゆえに宗教改革主流派から徹底的に弾圧され、安住の地を求めて旅する教会となった。彼らの遺産とは何か。宗教改革500年の年、もう一つの重要な改革運動の全容に迫った若手研究者たちの共同執筆。

◆四六判・本体2800円

希望の倫理

希望の地平において行動するために

大反響

エルゲン・モルトマン 著 / 福嶋揚訳

制御不能な資本主義と格差の拡大、憎悪の昂進とテロの連鎖、科学技術によって進む生命操作と破壊される環境。山積する21世紀の課題に対する聖書的・終末論的倫理からの深い洞察。

◆四六判・本体4000円



ロゴセラピーのエッセンス

ヴィクトール・フランクル 著 / 赤坂桃子 訳

牧会者必読

18の基本概念

フランクルが『夜と霧』英語版に付した貴重な入門論文。ロゴセラピーの18の基本概念をコンパクトに説き明かす。

◆小B6判・本体1850円



十字軍とイスラーム世界

神の名のもとに戦った人々 R. スターク / 櫻井康人 訳

十字軍は侵略者だったのか? 『キリスト教とローマ帝国』で著名な宗教学者が、西洋帝国主義の嚆矢とされる通説的十字軍像を歴史的に再検討し、東西世界の衝突の実態に迫った問題作。

◆四六判・本体3200円



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇一七年三月二日発行(毎月一回一日発行)
本のひろば 第七一〇号 二〇一七年三月号

発行所 〒162-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三三二六〇一六五二〇 振替〇〇一七〇一五一一一六七九
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 (株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話〇三三二六〇一五六七〇

定価七八円(税抜七二円)(〒62円)
一年分一三〇〇円(送料共)